

令和7年度 第2回横浜市障害者就労支援推進会議 会議録

日時	令和8年2月20日(金) 9時30分～11時30分
場所	横浜市役所 18階なみき 9-12 会議室
出席者	眞保委員長、小川委員、左近充委員、池田委員、佐藤委員、内山委員、加藤委員、後藤委員、福田委員 事務局:飯野障害自立支援課長、大野就労支援係長 他、職員 3名
欠席者	鶴見委員、高尾委員、金子委員、男澤委員
開催形態	公開
議題	1 開会、概要説明 2 議題 (1)「働きたい！わたしのシンポジウム」のリニューアルについて (2) 意見交換 3 報告 令和8年度予算概要について 4 閉会
議事	1 開会 出席数が委員の過半数を超えていることを確認。 今回から出席する2人の委員(小川氏、佐藤氏)より自己紹介 2 議題 【眞保委員長】 それでは次第に沿い、議題である『「働きたい！わたしのシンポジウム」のリニューアルについて』について、説明を願いたい。 【事務局】 ～(資料1)の説明～ 今説明した内容を踏まえ、ご意見をいただきたい。 【眞保委員長】 動画形式による実施、座談会形式による実施、またはその他の方式も考えられるが、いずれにしろ、従来の開催方式を見直し、リニューアルを図る方向性で検討したいとのこと。委員各位が感じるメリット・デメリットについて意見を求める。 【後藤委員】 シンポジウムが磯子で開催された際に、自分が出演したと記憶している。参加者数も多く、本人の達成感が大きかったことが印象に残っている。自分の経験談を聞いてもらえる機会は有意義であり、形式としては座談会が望ましいと考える。対面で顔が見える場の方が良い。

【福田委員】

クローズド形式の講演会は登壇と質問を受ける形だったのか、確認したい。

【事務局】

そのとおりである。

【福田委員】

本事業の目的を確認したい。

【事務局】

障害種別や雇用状況の変化に伴い、参加者が抱える課題は時代とともに変化しているが、基本的な目的は変わらず維持されてきたと理解している。

【福田委員】

リアル開催が望ましいと考える。動画形式だとよそよそしい感じ、リアルな感覚がないように感じてしまう。アーカイブとして編集した動画にする方法が適しているのではないか。

【事務局】

まず座談会を実施し、その内容を素材として動画化するという理解でよいか。

【福田委員】

そのとおりである。

【小川委員】

就労支援センター相談コーナーには当日は(担当した1時間だけでも)4~5名ほど来ており、市内に相談できる場所がある、ということを知ってもらう点では、就労支援センターとしても良い機会であったと考える。自身も動画に出演したことがあるが、「永続的に残る」という点で出演者側に配慮が必要である。他方、来場できない人には動画は有効である。

座談会に加え、働いている様子を動画で紹介する方法も有効である。これまでの登壇者探しは負担が大きかったが、公募形式で話しやすい場とすることが望ましいと考える。

座談会・動画のどちらも良く、組み合わせて実施できる形が理想である。

【左近充委員】

動画・座談会・対面の全てを実施できないかと考えた。予算規模を確認したい。

【事務局】

このイベントの予算は100万円程度。

【左近充委員】

予算について理解した。目的として、参加者が将来に希望を持てる場としたい。複数名の登壇者による発表や、物販、就労支援センターや就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型事業所、基幹相談支援センターなどの関係機関によるブース形式はどうか。スタンプラリー形式で回ってもらうのも良い。興味がある事業所は、謝金がなくても協力してくれると思う。

短い紹介動画を各支援機関が制作、事前告知することで、広報効果や集客にもつながる。登壇も良いが、「これからのライフキャリアを描く」講座形式や、グループワークを伴う「おしゃべりの場」も有効である。リアル会場の中で、動画・座談会を組み合わせることも予算内で可能ではないかと考える。

【池田委員】

参加者が何を求めているかで最適な形式は異なる。すでに取り組みを始めている人と、これから検討する人では必要な情報の伝え方が変わる。動画は啓発効果が高く、座談会は当事者の不安や困りごとの「生の声」を聞ける点が強みである。ちょっとした停滞が当事者のあせりにつながることが多いが、「当事者は何に停滞しているのか？」をクローズアップし、話し合うことで、自分だけではないという安心感も得られる。

自立支援協議会(児童・放課後等デイサービス領域)では「自立・療育とは何か」という議論があり、自分だけで全てを行うのではなく、周囲に支えられながら社会に良い影響を与えて生きていくものだと説明されていた。

働くことも同様であり、「将来の幸せ」を目的に据えるべきである。企業は生産性を重視する傾向にあるが、障害当事者の多くは人とのつながりを通じて良い影響を与える力が大きい。こうした点を伝えられる機会が必要である。啓発の必要性は高く、座談会の中でも扱えると考ええる。

【眞保委員長】

参加者属性の把握状況を確認したい。

【事務局】

～アンケート結果を説明～

【佐藤委員】

動画・座談会のどちらが良いか判断が難しい。座談会は直接話せる点が利点だが、動画であると、発表者にとって相手が見えない状態での発言は不安につながる可能性がある。一方で、動画は自分のタイミングで視聴でき、当日の参加が難しい人にも届く利点がある。座談会を録画して配信する方法は有効だと考える。

働く上で「どんな困難があるのか」「何が良いのか」「収入はどうなるか」など、具体的な情報を求める声が多い。働き方の多様化(例:スポットワーク等)もあり、その情報提供はイベントならではの価値になる。座談会を実施する場合はグループ規模を小さくしないと話しづらい可能性がある。

【内山委員】

学校でも年数回、先輩の話を聞く会を実施しており、就労継続支援 B 型・一般就労等の進路を知る良い機会となっている。学生時代をどう過ごして就職につながったか、も知れるため、保護者の関心も高い。会社の様子を動画で見せる取り組みもあるが、対面の方が雰囲気を感じ取りやすい。

高校卒業後に就労移行支援・自立訓練を経て就職した人の話も重要であり、自分で進路を決める意思決定支援にもつながる。座談会を中心に、一部動画を活用する形が望ましいと考える。

【加藤委員】

ハローワークには、仕事を辞めて間もない人も多く来所する。初めての挫折で自分が何をしたいのかわからない人、障害特性の把握が十分でない人も多い。

現役の当事者の声を聞けることは大きなメリットであり、孤立感の軽減にもつながる。在宅勤務や外出困難な人は動画でしか参加できないため、両方の形式が必要である。

【眞保委員長】

最初に発言した委員へ追加意見を求める。

【後藤委員】

座談会と動画を組み合わせて実施するのが良いと考える。

【福田委員】

公募はどのように行っているのか確認したい。

【事務局】

ウェブページ・SNS・事業所へのチラシ配布などで広く周知し、候補者を募集した。

【眞保委員長】

この種の企画は一本釣りになりがちだが、公募は重要である。継続すれば「次は自分も」と思う人が出てくる。ただし「動画として残る」となると座談会が難しくなる可能性がある。当事者のニーズはクローズドな場にあるため、顔を黒塗りで公開するなど適切ではない。

目的を整理すると、本イベントでは企業参加は多くなく、参加者の多くは当事者である。当事者向けの企画なのか、広く市民への啓発を狙うのか、目的が揺らぐと難しい。

【事務局】

広く一般市民向けの啓発も必要だと考えるが、これまで市役所にて開催した 2 回は十分に届いていないと思われる。別の形式も検討すべきかと考える。

【眞保委員長】

当事者向けにはクローズドの座談会を実施し、残った予算で企業から動画を制作してもらう方法も良い。企業は人材を必要としているし、協力依頼をすれば喜んで提供してくれると思う。就労

継続支援 A 型・B 型・生活介護から就職者を出すという全国的課題もあり、企業などのブース出展で当事者に話を聞いてもらう機会が有効である。

【事務局】

昨年度の物販は、食品や雑貨を扱う 12 事業所が出店し、売上の 8 割が食品だった。ブース配置についても内部で検討している。

【眞保委員長】

物販と合わせて、就労継続支援 A 型・B 型の利用者に来場してもらえるような仕組みが有効である。企業も就労継続支援 A 型・B 型とつながりを求めている。

【事務局】

参加者層を変えると、従来の来場者が減る懸念もある。

【眞保委員長】

会場内で区切りを設ければ、クローズドの座談会も可能である。「○○カフェ」のような形式も考えられる。1 時間のセミナー、1 時間の座談会、30 分の共有など、同時開催も可能と考える。

【事務局】

座談会と動画は初めての取り組みであり、構成を一から検討する必要がある。

【眞保委員長】

ファシリテーターは就労支援センターにも協力を求められるのではないかな。

【小川委員】

過去に市役所ではなく地域の公会堂で実施していた折は、そのエリアの就労支援センターが協力していた。全市的な取り組みとするなら、就労移行支援事業所も含め、幅広く協力依頼をしてよいと思う。

【眞保委員長】

企業の能力開発の一環として、自社で働く社員を登壇させたいニーズも考えられる。採用環境は変化しており、テレワーク等も増えているので、公募などで企業を募集することはよいのではないかな。

【事務局】

これまでは一般就労を中心とした構成であり、登壇者の属性の選定は今後の検討課題である。

【眞保委員長】

追加で発言をしたい委員はいるか。いないようなので、私から申し上げる。

座談会は当事者に有意義であるが、オープンな場では難しい可能性がある。ブースでの実施など、形式を柔軟にしながら検討すべきである。また、テーマについても、ファシリテーター次第では就労ではないテーマに話が流れる可能性があり、工夫が必要である。会場でシンポジウムは行い、質疑応答はブース形式もしくは座談会形式で行うというやり方も考えられる。市として考えてみてほしい。

では、意見交換を終了し、3 報告事項へ移る。

【事務局】

～「令和8年度 予算概要について」を説明～

【眞保委員長】

議題は全て終了した。ぜひ、次年度の事業にこれらの意見を活かしていただきたい。

4 閉会